

最近、様々な帝国主義論について聞かれましたが、メキシコ紙のラ・ホルナーダ紙に面白い記事がありましたので、紹介いたします。

著者は「私は、当初ロシアのウクライナ侵攻を強く非難していましたが、現在では、ロシアを弱体化させ、中国を抑止するために、アメリカの強い挑発があったので、このような事態を引き起こしたのだ」と強調するようになっています。(新藤通弘)

様々な帝国主義 死と嘘の一年

著者 ポアベントゥーラ・デ・ソウサ・サントス

出典：ラ・ホルナーダ(メキシコ紙)

私は、当初ロシアのウクライナ侵攻を強く非難していましたが、現在では、ロシアを弱体化させ、中国を抑止するために、アメリカの強い挑発があったので、このような事態を引き起こしたのだと強調しています。

ウクライナ戦争では、アメリカ帝国主義、ロシア帝国主義、中国帝国主義が対決しています。私はすべての帝国主義に反対であり、将来的にはロシア帝国主義や中国帝国主義が最も危険となるだろうと認めますが、現時点では、最も危険な帝国主義は、間違いなくアメリカ帝国主義だと思います。アメリカ帝国主義は、軍事と金融の2つの分野で優位に立っているのです。しかし、この帝国主義が長続きする保証はどこにもありません。実際、私は、このアメリカ帝国主義が衰退しつつあると主張してきましたが、この衰退自体が、今日のより大きな危険を説明する要因の1つであるかもしれません。

アメリカ帝国主義の力学は止められないようで、挑発したり扇動したりする破壊は、2つの広大な海に守られた国境から遠く離れた場所で事件が起きるという信念によって常にかきたてられています。したがって、彼らは他の民族に対してほとんど遺伝的な侮蔑を抱いています。米国は民主主義のために介入すると常に主張していますが、結果は、破壊と独裁、あるいは混迷を残すだけです。

このイデオロギーを、最近でおそらく最も極端に述べたものは、新保守主義者のロバート・ケーガン(ジョー・バイデン大統領の政権で政治担当国務次官を務める新保守主義者のヴィクトリア・ヌーランドと結婚)の最新刊

『The Ghost at the Feast: America and the Collapse of World Order(ゴースト・アット・ザ・フィースト(饗宴の亡霊 アメリカと世界秩序の崩壊))、

1900-1941 (New York, Alfred Knopf, 2022) で読むことができます。本書の中心的な考え方は、アメリカは、人々をより幸せに、より自由に、より豊かにしたいと願い、汚職や専制政治が存在するところならどこでも闘う、世界でも類を見ない国だということです。そうであれば、アメリカは、非常に素晴らしい巨大な力を持っていましたので、時期を失せず軍事、財政的に介入していれば、ドイツ、イタリア、日本、フランス、イギリスをアメリカが指定する新しい世界秩序に従わせて、第二次世界大戦は回避することができたでしょう。

ケーガンによれば、米国の海外の干渉はすべて、干渉した民族の利益のための利他主義的なものでした。最初の海外軍事干渉である 1898 年の米西戦争（当時から今日に至るまでキューバを支配する目的でした）と 1899 年から 1902 年のフィリピン・アメリカ戦争（フィリピンの自決に反対し 20 万人以上の死者を出した）以来、米国は常に利他的な目的で、人々の利益のために介入してきたものでした。

この偽善と、真実を隠蔽した不快な記念碑は、米国の最も激しい絶滅と差別にさらされた先住民族と黒人の悲劇的な現実を考慮さえせずに、こうした想像上の解放的と思われる海外干渉を行った記録なのです。歴史的な記録は、この神秘化された残酷な実像を明らかにしています。干渉は常に、米国の地政学的、経済的利益によって決定され、その点では米国も例外ではありません。それどころか、これはすべての帝国にとって常にそうでした（ナポレオンやヒトラーのロシア侵攻を想起してほしい）。

歴史的な記録は、アメリカが自国の帝國的利益を優先して、しばしば他国の自己決定、自由、民主主義への願望を消し去り、荒廃と死をもたらした血に飢えた独裁者への支援をもたらしたことを示しています。ニカラグアのバナナ戦争（1912）、キューバの独裁者フルヘンシオ・バティスタへの支援と 1961 年のコチーノス湾軍事作戦、1964 年のブラジルでの軍事クーデターの支援、チリのサルバドル・アジェンデ政権の倒壊（1973）；イランの民主的に選出されたモハンマド・モサデグ大統領に対するクーデター（1953 年）からグアテマラのハコボ・アルベンス大統領に対するクーデター（1954 年）；共産主義の脅威をなくすためのベトナム侵攻（1965 年）から、それまでアメリカが 20 年間、ソ連が支援する共産党政権に対してムジャヒディンを支援してきた後で、ニューヨークのツインタワーを攻撃したテロリスト（アフガニスタン人ではない）から守るためと仮定したアフガニスタンへの侵攻（2001 年）；サダム・フセインと彼の大量破壊兵器（存在しなかった）を除去するための 2003 年のイラク侵攻から、ほとんどが過激なイスラム主義者である（そして今も）反政府勢力を守るためのシリア介入まで；国

連の承認なしに NATO を通じてバルカンへの介入（1995 年）からリビアを破壊（2011 年）まで、いろいろな干渉の記録があります。

これらの干渉には常に「好意的な」理由があり、常に地域の共犯者や同盟者がいました。戦争が終わったとき（すべての戦争はいつか終わるものです）、殉教者のウクライナには何が残るのでしょうか。他のヨーロッパ諸国、特にドイツとフランスは、マーシャル・プランが米国の無私の博愛主義の表現であり、マーシャル・プランに無限の感謝と無条件の連帯を負っているという誤った考えにいまだに支配されています。ロシアには、何が残るのでしょうか。戦争が常に引き起こす死と破壊の先にどんな結末が残るのでしょうか。なぜヨーロッパには、公正で持続する平和への強い運動がないのでしょうか？戦争はヨーロッパで行われていますが、ヨーロッパの人々は、プーチンの友人や共産主義者と見られる危険なしに、良心的にそれに参加するために、米国で反戦運動が起こるのを待っているのでしょうか。

.....
ポアベントゥーラ・デ・ソウサ・サントス： 元コロンビア大学経済学部教授